

富岡製糸場と絹産業遺産群について  
しらべてみよう

解 答

年 組 番 名前

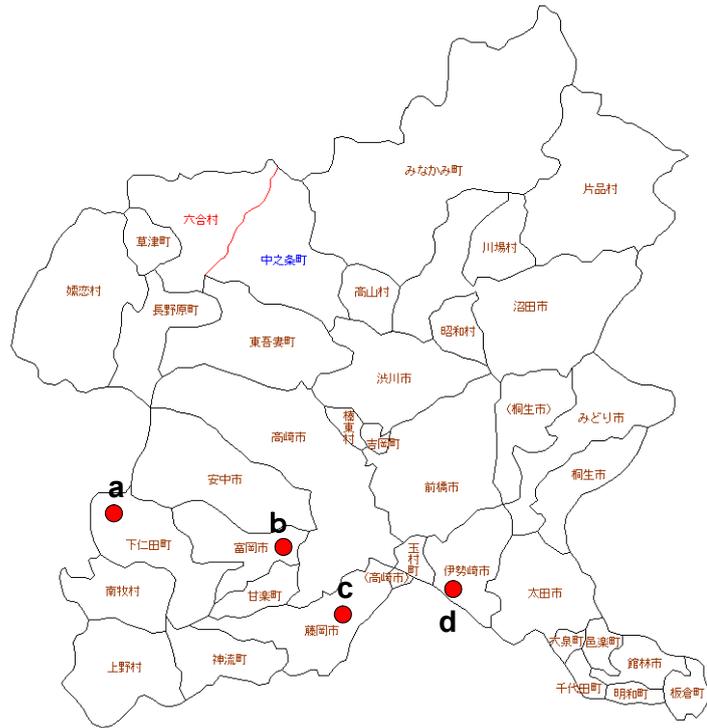
群馬県立日本絹の里を見学して、①から⑥までのことについてしらべてみよう。

①富岡製糸場と絹産業遺産群は、日本国ばかりでなく世界の宝とするため、平成26年6月に世界遺産として登録されました。

富岡製糸場以外にも絹産業遺産として、荒船風穴(下仁田町)、田島弥平旧宅(伊勢崎市)と高山社跡(藤岡市)が登録されました。

さて、これらの遺産は群馬県地図のどこの地点にありますか？

( ) の中にa~dを答えよう！



- 富岡製糸場 ( b )
- 高山社跡 ( c )
- 田島弥平旧宅 ( d )
- 荒船風穴 ( a )

②富岡製糸場は明治5年(1872)10月に繰糸(繭から糸をつくる)が始まりました。繰糸機はフランスから輸入したものを日本で使いやすいように改良したもので、300人の繰糸ができる世界トップクラスの規模の工場が作られました。

なぜ富岡の地が工場の場所選ばれたのでしょうか。主な理由は下の5つでした。

( ) に入る言葉を答えよう！



富岡製糸場

- 1 生糸の原料となる繭を確保できる ( 養 蚕 ) がさかんな土地だった
- 2 製糸に必要な ( 水 ) が確保できた
- 3 ( 広 い ) 土地があった
- 4 燃料に使われる ( 石 炭 ) が近くから採れた
- 5 外国人が指導する工場の建設を ( 地 元 の 人 ) が受け入れた

④田島弥平旧宅は江戸時代末期（1863年）に建てられたもので、田島弥平は明治時代初めに養蚕技術書（養蚕新論）を出版し、さらに蚕種販売会社の設立も行っています。田島家のある島村では明治初年から十年にかけては全村で蚕種（カイコの卵）を生産し、生産された蚕種はほとんど横浜から外国へ輸出されていました。その後は、近年まで国内利用の蚕種を生産していました。



たじまやへいきゆうたく  
田島弥平旧宅

さて、田島弥平旧宅は、カイコを育てるために特殊な工夫がされています。このような形をした家は養蚕地帯に多く見られます。さてどのような構造をもった家でしょうか。

- a 2階を設けた    b 越し屋根（小窓つき屋根）    c 屋根を瓦に    d 南向きの家

こたえ（ **b** ）

⑤荒船風穴は、明治末期に造られ、岩の隙間から吹き出す冷風を利用してカイコの（？）を貯蔵していました。荒船風穴のこの貯蔵能力は国内最大規模で、現在でも石積みの中から天然の冷風が吹き出しています。



あらふねふうけつ  
荒船風穴

さて（ ）中の貯蔵品はなんのでしょうか？

- a 蚕種（カイコの卵）  
b カイコの幼虫  
c 繭  
d 蛹

こたえ（ **a** ）

⑥江戸時代末期（1830年）に藤岡の高山家に生まれた長五郎は、「清温育」というカイコの育て方を開発しました。また、カイコの育て方を教える高山社（養蚕教育機関）をつくりました。今も残る母屋兼蚕室は2階が蚕室で高山社分教場として多くの生徒の実習に利用されていました。高山長五郎が確立した清温育は、すぐれたカイコの育て方のため（？）に広まりました。



たかやましやあと  
高山社跡  
たかやまちょうごろうせい  
(高山長五郎生家)

さて（ ）内にあてはまる語句はなんのでしょうか。

- a 群馬県内  
b 関東地方  
c 関東・中部・東北地方  
d 47都道府県

こたえ（ **d** ）